



師走(12月)に入り、今年も残すところ数週間となりました。

正月3日の「新年の集い」

では、今年の干支「羊」にちなんで、みんなが穏やかに過ごせる年になってもらいたいという話をしましたが、世界の現実にはテロ行為など厳しい状況が続いています。来年こそは、世界中の人々が安心して暮らせる世の中になることを心より祈りたいと思います。

総務省が文科省・外務省に勧告！

—日本人学校・補習授業校の教員確保を—

1、教員確保と教育環境の充実について

企業の海外進出に伴って、海外の日本人学校や補習授業校の児童・生徒は増加しているにもかかわらず、現状の教員数や教育環境は十分とはいえません。

そこで、教員の派遣増や財政支援の充実を求めて、総務省行政評価局は、8月21日、文部科学省(以下、文科省)と外務省に改善を勧告しました。



2、児童・生徒は増加、派遣教員は減少

総務省の調査によると、昨年3月現在で日本人学校は50カ国・地域に88校、補習授業校は54カ国・地域に203校あり、計約4万人が学んでいます。

(日本人学校2万0615人、補習授業校1万9894人)

文科省と外務省は、派遣教員の人件費や校舎の賃貸料などに年約200億円の支援をしています。



日本人学校の児童・生徒数は2005年度～2014年度の10年間に19.1%増加しているにもかかわらず、日本からの派遣教員数は10.2%減少の1138人で、学校によっては

<初等部 1年授業参観>

教員が足りず専門外の教科も担当するといった支障も出ています。

さらに、補習授業校への財政支援も減っており、昨年度(2014年度)は15の新設補習授業校が国に支援を求めましたが、残念ながら支援を認められた学校はありませんでした。

3、シニア人材活用と予算増額要請

教員の派遣は、文科省が各都道府県や政令指定都市(以下、政令市)に要請し、各都道府県や政令市が推薦することになっています。



<幼児部お誕生会>

しかし、近年各都道府県や政令市で教員が不足し、欠員補充が難しいために推薦が減っています。

(昨年1200人の要請に推薦は374人)

このため、今回の勧告では退職後のシニア人材を積極的に活用するよう求めています。

また、補習授業校への賃料や教材費などの支援について、予算増額などを検討するよう両省に要請しています。

(参照:2015.8.21日経夕刊、朝日夕刊)

「学校説明会」で話すこと

今月5日、2回目の学校説明会を実施いたします。今回の説明会で校長が話す内容を、紙面をお借りして簡単に紹介させていただきます。

1、ニュージャージー補習授業校について

①本校の歴史

- * 1962年にNY日本クラブに日本語教室として開設
- * 1980年にNY補習授業校に改称
- * 1999年NJ補習授業校として独立

②在籍数:幼・小・中・高・国際(12/5現在) 459名

③経営理念

「全ては子どもたちの笑顔のために」

2、補習授業校について

①3つの目的

- * 日本語の保持向上。
- * 日本の文化・集団生活を学ぶ。
- * 帰国・体験入学する際の <6/6 第1回学校説明会> スムーズな軟着陸を可能にする。



②本校の5つの特色

- * 図書室蔵書6000冊
- * デジタル教科書を使った授業
- * 文科省派遣教員 (校長、教頭)
- * 幼小中高の一貫教育
- * 恵まれた自然環境



<中等部2年デジタル教科書を使った授業の様子>

③母語と学習言語

- * 母語の急速な発達は2歳～4歳
- * 母語の基礎は5歳まで
- * 学習言語は補習校で (学習言語例: 算数→数直線、筆算、不等号、位取り 国語→段落、小見出し、要点)



④学力の等式

学力 = 言語能力 × ねばり強さ

(* 学力は幅広い言語能力とあきらめずに続ける力の積です。基礎的素地としての健康と体力は必須です。)

見聞した物事 > 言語能力

(* 言語能力は、経験を通した見聞以上には伸びない。経験の積み重ねが多い程、言語能力は高くなる。)

3、日本の宝

グローバル化の中で、必要とされる人材とは

- ① 語学力(英語)
- ② 度量(誰とでも対等に立ち向かう態度)
- ③ 国際的な知識と教養

4、最後に

- * 家庭は第二の補習校
- * 保護者は第二の先生



何に入れてる？勉強道具

<キャリーバック、バックパック、ランドセル>

先日、転入する児童の母親から「教科書やノートなどの勉強道具の入れ物はどのようなものを用意したらよいのでしょうか。」との質問がありました。恥ずかしながら、普段あまり気に留めることがなかったので、咄嗟に答えることができませんでした。

改めて子どもたちの様子を見ると3つの種類がありました。最初に目についたのはキャリーバックを引いている姿で、次はバックパックやランドセルを背負う子どもたちでした。



<キャリーバック>

試みに、初等部4年生のカバンを持ち上げて見ると、ずっしりとした重さで、その中身は国語、算数、社会の教科書、漢字・計算ドリルと各種ノート、辞書、筆箱、定規、コンパス、弁当、宿題関係(「国語の学習」の問題集、「算数の力」の問題集、プリント)等がすき間なく入っていました。



<バックパック>

以上、特に入れ物の指定はありませんが、子どもの負担が少なく、持ち運びや出し入れに便利で丈夫なものを選ばれるとよいのではないのでしょうか。



<ランドセル>

— 冬期の事務所クローズ期間 —

※Fort Lee 事務所のクローズ期間

12月28日(月)～1月4日(月)

必要な連絡はメールでお願いいたします。



※今年も、多くの方々に支えられた1年でした。補習授業校は、子ども、保護者、教職員、借用校の四者が一体となって初めて成り立つ教育機関です。

来年も引き続きご支援ご協力の程よろしく申し上げます。